

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100368		
法人名	(有)都紀		
事業所名	本庄紀水苑		
所在地	佐賀市本庄町袋229番地8 (電 話) 0952-41-1262		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年2月23日	評価確定日	平成 21年4月4日

【情報提供票より】(平成 21年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	12人	常勤	7 人, 非常勤	5 人, 常勤換算 4.9

(2)建物概要

建物構造	木造スレート瓦葺 2階建て造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	---------------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000(2階18,000円) 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(平成 21年1月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.8 歳	最低 71 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団真仁会諸隈病院 ・下平歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は大通りに近い場所に位置しているものの、閑静な住宅街にあり、静かな環境で入居者は生活されている。また、地域との交流を積極的に行われており、地域住民の協力を得ることができている。職員は、ホームの理念である「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」をモットーに、入居者の残存能力を引き出し、活用しながら、支援に取り組まれている。また、職員の研修や、季節ごとの行事を合同で行うなどフランチャイズ加盟の他のグループホームとの連携が図られており体制も整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあいでは、入居者の希望や、体調面により地域行事等の参加は難しいが、できる範囲で地域とつながりを持つとする姿勢が見受けられる。また、家族等への報告についても入居者の日々の暮らしぶりなどホーム便りで個別に報告をし、それぞれの家族等に送付されており、家族からの反応もある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成や、前回の外部評価の改善点についてはスタッフで話し合いをしながら取り組まれており、改善が見られている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議という名称が難しいとの意見により「お話会」として参加を呼び掛けられている。地域包括支援センター、地域の方、家族、入居者の方々に参加してもらい、ホームの役割、状況や入居者の暮らしぶりなどを報告し、家族の要望や想いを聞き出せる場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、面会時や運営推進会議、家族会など積極的に話しかけ意見や不満などを聞くようにされている。頂いた意見はスタッフ間で協議し改善にむけ、迅速に対応されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	常に、買い物や外出時に地域住民との会話を多く持ち、ホームについて理解してもらえるよう取り組まれている。また、入居者とともに、ごみ集積所の清掃や、手作りおはぎの配布なども行われている。そうした活動の積み重ねで、近隣住民からの協力を得ることができている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」の理念の下、家庭的な環境で残存機能を活用し、地域住民との交流を持てる環境とケアを目指されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビング、事務所の中に理念を掲げ、理念実践に向け 日々努力されている		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	常に、買い物や外出時に地域住民との会話を多く持ち、ホームについて理解してもらえるよう取り組まれている。また、入居者とともに、ごみ集積所の清掃や、手作りおはぎの配布なども行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフで話し合いながら自己評価を作成されている。また、前回の外部評価の改善点はスタッフで話し合い取り組んでおり、改善が見られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議という名称が難しいとの意見により、「お話し会」として参加を呼び掛けられている。包括支援センター、地域の方、家族、入居者の方々に参加してもらい、ホームの役割、状況や入居者の暮らしぶりなどを報告し、家族の要望や想いを聞き出せる場となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを中心に、その他の担当者とも度々連絡を取り合い、サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	病状の特変時には随時、電話連絡が行われている。入居者の日々の暮らしぶりなどは面会時やホーム便りで個別に写真や文章にて報告をし、それぞれの家族等に送付されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時や運営推進会議、家族会など積極的に話しかけ意見や不満などを聞くようにされている。頂いた意見はスタッフ間で協議し改善にむけ、迅速に対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人の事業所内でやむなく異動がある際は、新旧職員の重複勤務の期間を設け、十分な引き継ぎを行い、入居者にスムーズに受け入れていただけるようフォローし、馴染みの関係つくりに向け取り組むようにされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フランチャイズの事業所合同で行われている勉強会に参加し、知識や質の向上に向け取り組まれている。また、外部の研修や講習会にも参加できるよう情報提供や勤務体制の調整が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズの事業所間での交流研修の機会があり、他ホームを体験することで学んだり、感性を磨くことができている。また、フランチャイズ以外の事業所にも訪問を行い、ネットワーク作りをされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等の要望があれば、利用に至るまで入居者の心理状態を配慮した上で、体験入居期間が設けられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」(自分らしい生き方を求めて)という理念の下、残存能力を活かすため、入居者の出来る事を一緒に発見し、喜び楽しみを共に感じ、お互い学び支え合う関係が保てる様努められている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が何を、どうして欲しいのかを行動や訴え等で見極め、否定せず接し方にも十分配慮している。日中のプログラムについても、強制はせず、本人のペースに合わせた支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には家族本人の意見を聞き情報収集し、スタッフ全員で話し合い、担当者ケアマネで作成している。また、家族、本人にプランの説明がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行い、一か月毎のモニタリングをしている。状態変化時には本人、家族、必要な関係者とその都度話し合い、新規計画、追加プランを作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況で病院付添などが出来ない場合は、家族に代わって付き添いを行っている。また、入居者の希望により同法人に出向き、顔なじみの同苑者やスタッフと過ごせる時間なども提供されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望に応じたかかりつけ医を持っている。また、ホームの提携医療機関から月一回の往診があり、その都度、状態報告を行っている。また、急変時にも対応可能な医療機関と連携が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期の指針があり、入居時にその内容を家族、本人に説明している。また、こうした状態になった場合、出来るだけ早い段階で、本人や家族の意向を取り入れながら、医師と話し合い、方針の共有化を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフは入居者一人ひとりを尊重し、否定しないケアを行っている。個人情報の取り扱いについては職員採用時に書面を取り交わすことで徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」をモットーに入居者の残存能力、ペースに合わせたさりげない言葉かけを行い、希望にそったケアがなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考え、食材の買出しや、材料を切ったり、盛り付けたり、食卓のセッティングを一緒にして頂き、片付けも共に作業するなど、楽しみながら意欲を引き出す支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴を行っており、体調、状態にあわせ本人の希望するタイミングをみたり、入浴剤を入れて入浴が楽しめるよう支援を行っている。また、拒否が強い方は無理をせず時間をおいたり後日に延期したりと配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や残存能力を活用した日常生活、洗濯物畳みや調理等楽しんで出来る様会話を持ちながら行われている。また、その為の用具も用意されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のバスハイクが行われている。また日常的には、散歩や買い物に出掛けたり、庭で草取り、洗濯干したりと戸外に出る機会を作っている。また、車いすであっても希望に応じて外出の支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵をかけず出入りを自由にしている。そのため所在確認や出られる際は見守りながら同行し、安全に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	玄関と居室入口に避難協力者が分かりやすいように担送、護送を写真で記載がなされている。火災時の訓練として年2回消防訓練を行っており近隣の方や消防団の方にも災害時の協力を依頼し、協力を得ることができている。	○	今後は火災以外(水害、地震)が発生した際、避難をするための、避難場所、経路の確認などを行っておくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別な配慮が必要な入居者の食事や水分摂取に関しては、その都度対応がなされている。献立のバランスについては、使用食品一覧表を作成し、栄養やカロリーの過不足が起こらないよう努められている。また、入居者個別のチェック表で摂取量の確認がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不快を感じないよう配慮がなされ、壁には季節感のある作品を入居者と一緒に作成している。また、花や置物等を飾ったり心地よく生活出来るよう工夫がなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や知人の写真や使い慣れたものを持参することができ、使い慣れた物があることで、安心して心地よく生活出来るよう工夫されている。		